

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	鍼灸美容学科		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法		講義	
科 目 名	解剖生理学Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30	(1) 時間(単位)	
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時間	前期	教室名		講義室	
担 当 教 員	本多 健	実務経験と その関連資格						
《授業科目における学習内容》								
<p>質の高い臨床を行う為には解剖生理学の知識が欠かせない。解剖生理学Ⅱでは主に運動器(関節・筋)について学習する。関節・筋それぞれの概略を学び、人体の大まかな構造を理解する。運動器では大きく体幹・上肢・下肢の3部に分けてそれぞれ、関節の構造と動き、筋の起始・停止・支配神経・作用を学ぶ。</p>								
《成績評価の方法と基準》								
<p>平常評価(小テスト、筋課題)30%、期末試験70% 60点以上を合格とする。</p>								
《使用教材(教科書)及び参考図書》								
<p>教科書:『解剖生理』東洋療法学校協会編、医歯薬出版(2022年第1版)、(旧教科書:『解剖学(第2版)』『生理学(第3版)』、東洋療法学校協会編、医歯薬出版) 生理学の基礎、運動器 持参物:教科書を常に使用します。資料・課題:そのつど配布を行う。参考図書:『解剖学(第2版)』、東洋療法学校協会編、医歯薬出版/『解剖学講義』、伊藤隆著、南山堂/『イラスト解剖学』、松村譲児著、中外医学社/『解剖学アトラス』、越智淳三訳、文光堂/『解剖学』、清水勘治著、金芳堂など いずれも図書室蔵書</p>								
《授業外における学習方法》								
<p>○シラバスにて教科書「解剖生理学」の項目を記述してます、事前に指定所をよく読んで予習をしておくことが望ましい。また、模型を使用する等して理解を深めましょう。 ○授業中に課題を配布するので、授業後に課題を実施して、指定日に提出すること。 ○授業のはじめに前回までの授業内容から、小テストを実施しますので、復習をし、課題・資料などを見て確認を行うこと。</p>								
《履修に当たっての留意点》								
<p>解剖生理学は重要な基礎科目です。なにより人体の構造は鍼灸師、医療人として必須の知識です。特に解剖生理学Ⅱは実技においてはもちろんのこと、経絡経穴学・整形外科・リハビリテーション医学などにも関わってきます。しっかり理解しておくようにしましょう。</p>								
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容			
第1回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	関節の種類と動作方向を理解し、説明できるようになる。	教科書・プリント	教科書(P15～16)と配布 プリント(P～)内容を復習 しておく。			
		各コマに おける 授業予定	関節の分類と運動方向 教科書p15～16、20、49、50					
第2回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	椎間関節について理解し、説明できるようになる。(靭帯と関節面の形状)	教科書・プリント	教科書(P32、33)と配布 プリント(P～)内容を復習 しておく。 教科書と配布プリント内 容を復習しておく。			
		各コマに おける 授業予定	椎間関節 教科書P32、33					
第3回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	肩・肘関節の構造について理解し、説明できるようになる。(関節唇と回旋筋腱板)	教科書・プリント 骨格模型	教科書(P36～37)と配布 プリント(P～)内容を復習 しておく。			
		各コマに おける 授業予定	上肢の関節 教科書P36～37					
第4回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	股関節の構造について理解し、説明できるようになる。(靭帯、特に関節内靭帯である大腿骨頭靭帯)	教科書・プリント 骨格模型	教科書(P38、42)と配布 プリント(P～)内容を復習 しておく。			
		各コマに おける 授業予定	手(橈骨手根)関節と股関節 教科書P38、42					
第5回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	膝・距腿関節の構造について理解し、説明できるようになる。(靭帯、特に関節内靭帯である膝十字靭帯と三角靭帯について)	教科書・プリント 骨格模型	教科書(P194～196)と配 布プリント(P43～45)内 容を復習しておく。 教科書と配布プリント内 容を復習しておく。			
		各コマに おける 授業予定	膝関節、足(距腿)関節 教科書P43～45					

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨格筋の構造と機能を理解し、説明できるようになる。	教科書・プリント 骨格模型	教科書(P22～23)と配布プリント(P)内容を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	教科書 P22～23		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋収縮の構造の仕組み、エネルギー代謝、収縮と筋電図について理解し、説明できるようになる。	教科書・プリント 骨格模型	教科書(P24～26)と配布プリント(P)内容を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	教科書 P24～26		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋の概論と上肢帯の筋について理解し、説明できるようになる。 (起始・停止・支配神経・作用)	教科書・プリント 骨格模型, 筋模型, 筋課題配布	筋課題 P21～22 【作業課題】を行い、筋の起始、停止、神経、作用を覚える。
		各コマにおける授業予定	骨課題提出締切予定 筋肉の分類と上肢帯筋 教科書P58～62		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	上腕部の筋について理解し、説明できるようになる。(起始・停止・支配神経・作用)	教科書・プリント 骨格模型, 筋模型	筋課題 P23～26 【作業課題】を行い、筋の起始、停止、神経、作用を覚える。
		各コマにおける授業予定	上腕の屈筋と伸筋、前腕の屈筋 教科書P62～64		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	前腕の筋と手の筋について理解し、説明できるようになる。	教科書・プリント 骨格模型, 筋模型	筋課題 P27～30 【作業課題】を行い、筋の起始、停止、神経、作用を覚える。 教科書と配布プリント内容を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	前腕の伸筋と手の筋 教科書P65～69		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	下肢の筋、下肢帯の筋と大腿部の筋について理解し、説明できるようになる。(起始・停止・支配神経・作用)	教科書・プリント 骨格模型, 筋模型	筋課題 P31～34 【作業課題】を行い、筋の起始、停止、神経、作用を覚える。
		各コマにおける授業予定	骨盤の筋と大腿部の筋(伸筋・屈筋) 教科書P69～74(P74 内転筋を除く)		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	大腿の内転筋、下腿の筋、足の筋について理解し、説明できるようになる。(起始・停止・支配神経・作用)	教科書・プリント 骨格模型, 筋模型	筋課題 P35～44 【作業課題】を行い、筋の起始、停止、神経、作用を覚える。
		各コマにおける授業予定	内転筋群と下肢の筋全て 教科書P74～76		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	胸筋、横隔膜の孔など、体幹の筋について理解し、説明できるようになる。(起始・停止・支配神経・作用)	教科書・プリント 骨格模型, 筋模型	筋課題 P8～10 【作業課題】を行い、筋の起始、停止、神経、作用を覚える。
		各コマにおける授業予定	胸筋と横隔膜と腹筋 教科書P51～54		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	腹部、背部の筋について理解し、説明できるようになる。(起始・停止・支配神経・作用)	教科書・プリント 骨格模型, 筋模型	筋課題 P11～17,1～2 【作業課題】を行い、筋の起始、停止、神経、作用を覚える。
		各コマにおける授業予定	側腹筋、鼠径管、背筋、菱形筋、脊柱起立筋、 教科書P55～58		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	今までの範囲を理解し、説明できるようになる。		自分が間違えた所や分からなかった所を覚えておき、終了後に全授業の中からもう一度探し出し、正しい内容を覚える。
		各コマにおける授業予定	まとめ 筋課題提出締切		